
漫画村
結婚
指輪
物語
Tales of Wedding Rings
6
Presented by
めいびい

結婚指輪物語
TALES OF WEDDING RINGS


結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
6
めいびい

Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

6

Contents

第 29 話
003

第 30 話
047

第 31 話
079

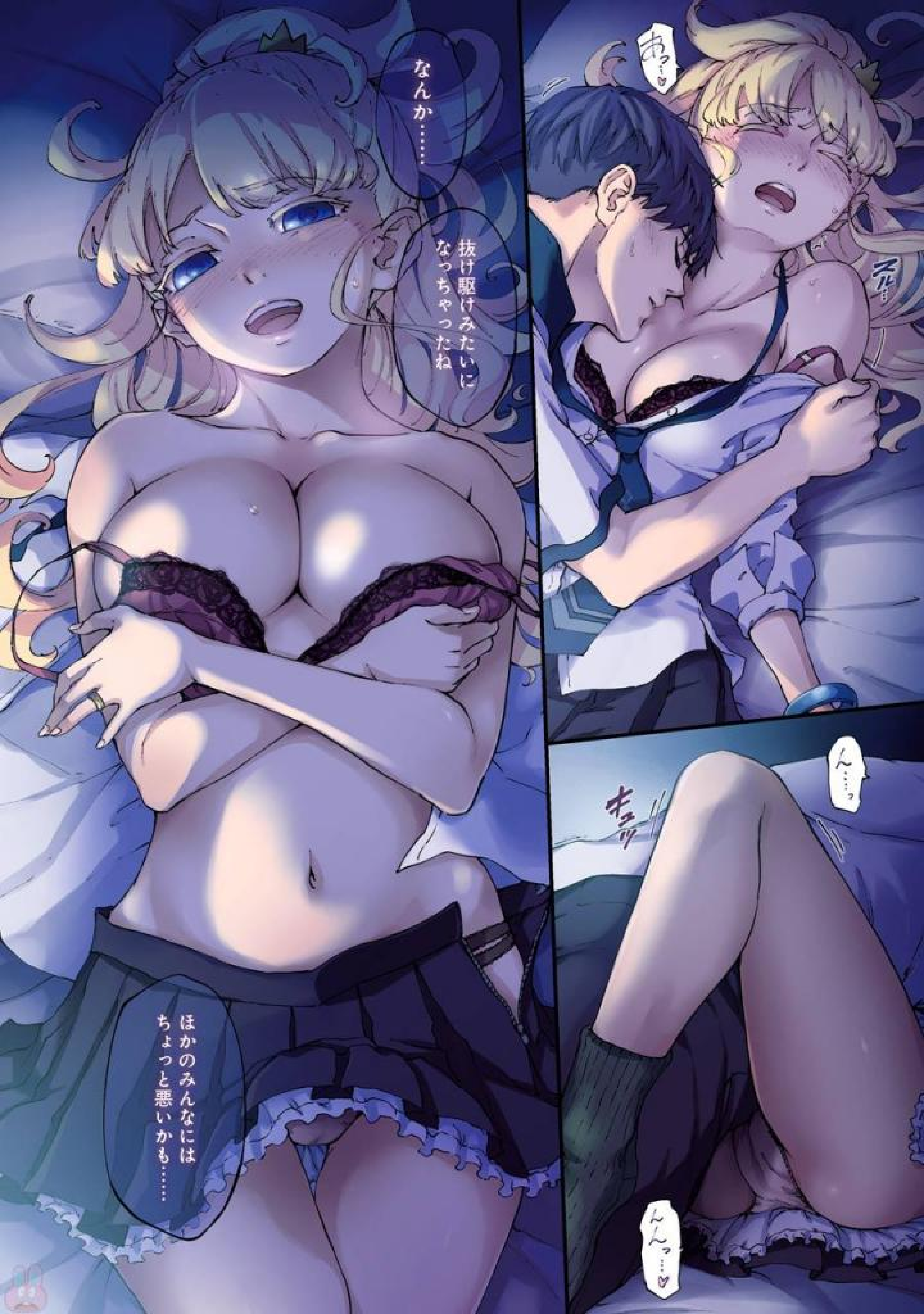
第 32 話
119

第 33 話
155

第 34 話
179

Presented by
MAYBE


サトウと この部屋で こんなふうに してるの……
夢みたい
こんなこと 絶対に叶わない…
叶えちゃ いけないって 思ってた
ス…
ヒメ……


あっ…♡
ズル
ん…っ
キュッ
んんっ…♡
なんか……
抜け駆けみたいに
なっちゃったね
ほかのみんなには
ちょっと悪いかも……


俺はヒメだけだって……言ったろ？
ん……
カァァッ
転移魔法装置の準備が完了した
これでアーヌルスに……


第29話





結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


何があった⁉
サトウ‼
グラナート⁉ これはその…
……………
ちがっ……いや！違わないんだけど……



どうやらその時が
来たようだな
……!
驚いてないな…
わたしは知っていた
アンバルのことも
猫人の洞察力を甘く見てもらっては困る
彼女はアンバルの言うことをすぐに理解してくれた
猫人にしては頭が良い
全部話したのか!?
禁止されていないはずいけなかった?



……ん？
猫人にしては……？
……その
グラナート
ごめん……
いや
クリストルの
考えもわかる
わたしたちの
世界が今
どうなって
いるのか
皆目
見当も
つかない
ちょっと
待て……
とんっ
だから
サトウの意思を
尊重しようと思った
妾には…
まぁ こうなると
期待はしていたがな
何が
なにやら……

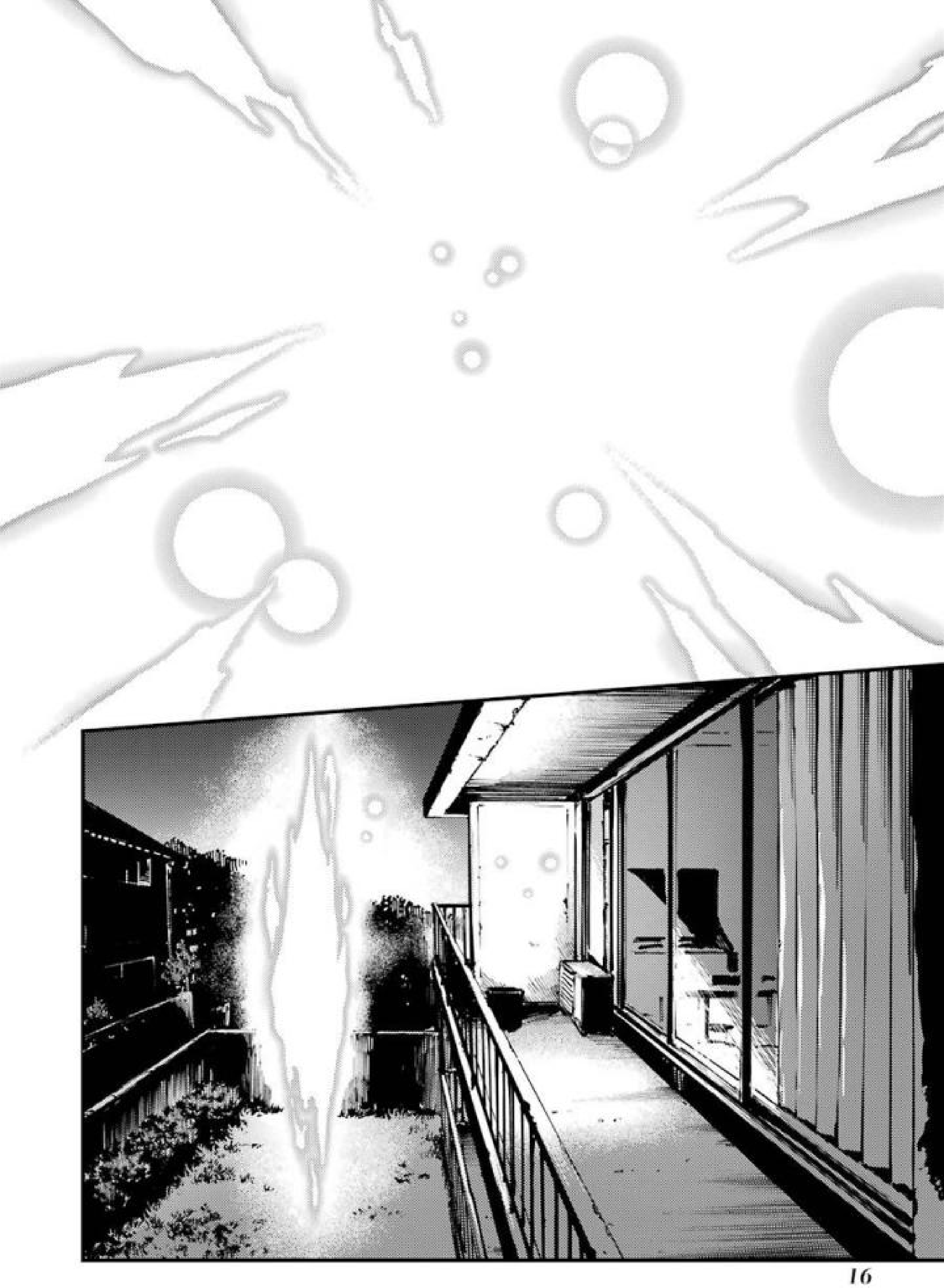


あまり詳しく話してる余裕は無いんだけど
ズル…
実は……
こやつが…
アンバル・イダノカン………？
土の指輪の姫!?


妾たちは…
帰れるのか？
ああ
戻れるんだ
アーヌルス
へ
!!
じわぁ…
そうか…
ポロ…
ポロ…
そうか……。
ガチ泣き!?
よしよし


…よし
準備ＯＫ！
…行こう！


…はれ？
どこかにいくんですか？
じっとしてろよ
!?




ここは…
イダノカンの
王宮か？
戻って…
来れたの？
暗くて
よく
見えないん
だけど…
???
……


ドゥ
ドゥ
アンバル!?
近くに魔物は居ない
生きているものも居ない
………
寂しい…のか?
……?


そういう感情は無い
アンバルはドワーフではないから
敵は居ないようだが…気をつけろ
人間の血の匂いだ
!?
ピカァッ
…とにかく
何が起きているのか確かめよう
パッ…
うん…
こっちのほうがいい？






この鎧…帝国兵のものじゃ
ここで魔物と戦ったのじゃろう
倒れた者を弔うことも出来んとは…
どれほどの戦いがあったのか
もしかして…もうこの世界は……
………
ピクッ
サトウ…こっちだ!!




……帝国軍!!
まだ戦っている者たちが居たか!
!
あの先は……マーサなのじゃ
サトウ!あれを……


ああ…
わかってる
…深淵王(しんえんおう)!!


ここから下れば魔物の軍勢の脇に出られる
深淵王の虚を衝ける
…ああ
サトウ…


大丈夫 指輪は 揃ったんだ
みんなの 力もある
思ってたより いきなり だったけどな
…このために 帰ってきたんだ
うん…


サトウ…わたし
待ってるからね……


頼む…指輪王
お主に妾の…全てを賭けるのじゃ
サトウ様ならきっと…
大丈夫です
ぐいっ
頼りにしてるぞ指輪王


よし…行くぞ!!






ズドドォッ






お前が…
指輪を継ぐ者か


よくぞ ここまで 辿り着いた
新たな王…
少年よ……
力を一つに してやろう


次は
出し惜しみ
無しだ
全力で
打ち込め






ガッ


嘘…だろ……?


有り得ぬ……
指輪は世界の理の具現
深淵は必ず滅び…世界は……
救わ…れ……
俺じゃ……
ダメだってのか!?
指輪を継ぐ者よ
お前もまた故知らぬ傀儡か——


そんな…
サトウっ!!!



深淵王の前に調子に乗りすぎ温存していればもっといけたハズ
辛辣じゃのう…

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS

第30話

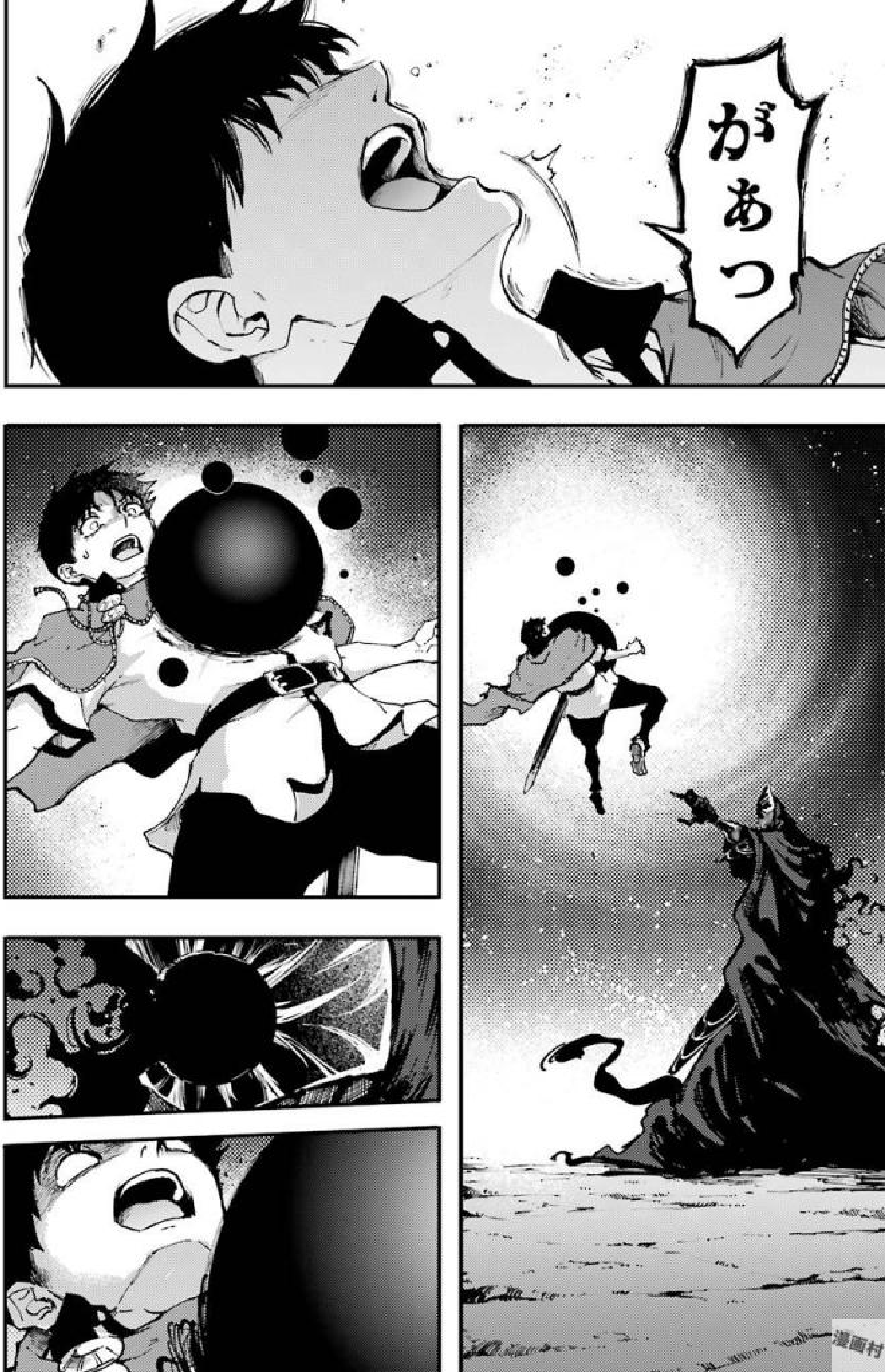



いかん…
いかんのじゃ
こんなことは…


がくっ
勝てるのではなかったのか!?
妾たちの使命は…
伝説とはなんだったのじゃ!?
わたしは行くぞ!
足手纏いになるなどと言ってられん
ここでサトウを失うわけにには…
いかんのだ


わっ…
わたしも！
ス…
大丈夫
アンバルが死なせない


ダメだ…
指一本動かせないなんてこと…
本当にあるんだな
深淵に還せよ…


があっ




指輪の…女ども……
みんな……
なんで…来たんだ……


見捨ててなど
おけるか！




くっ…
スゥゥ…
ガクッ
サトウ!?
みんな…
ごめん……


サトウ…ッ
サトウッッ!!
くそっ……
……俺は……






……じいさん？


ん…？
むくり…
じいさん……
気が付いたかサトウくん
そうか…俺は……死んだのか
お迎えがヒメのじいさんとか…酷すぎだ


何を言っとるんじゃサトウくん
わしらは死んどらんぞ
!?



なんだコレ!?
何がどうなって……
アラバスタ殿に間一髪助けられたのだ
さすがは大賢者…
…何を言うわしごとき
なんとか隙を作り深淵王から遠ざけるだけで精一杯
やはり
指輪王の力無くしてはな……
………


じいさん
死んで
なかったのか!?
勝手に
殺すでないわ


……！
そうだ……じいさん
じいさんが無事ってことはマルスさんも……
マルスも無事じゃよ
ほっ…
あの後……
俺たちを元の世界に送った後…どうなったんだ？
…それはな
あのお方のおかげじゃ


お久しゅう ございます指輪王
風のロムカ王族 スマラグディ・ロムカに ございます
!!
あなたは…！
スマラグディの おかげで
わしらは なんとか 深淵の魔物の 包囲から 逃れることが 出来たのじゃ


サトウくんらを元の世界に送った後も
わしらは魔物に囲まれまさに絶体絶命じゃった
なんとか包囲を突破せんと戦い続け疲労困憊…
ザクッ
くっ…
アラバスタ様!
なんの…まだまだ…
迫り来る魔物の群れ…
しかしすでに剣は欠け…
魔力は尽きかけておった…
魔物の群れが一斉に襲いかかる!


――その時じゃった
突然足元が崩れ
わしらは岩山の空洞に落下した！
!?
恐らくそこは
ドワーフの遺した地下坑道だったのじゃろう
こちらへ…早く！
奥に続く細く長い洞穴を通り抜け…
わしらは命拾いしたのじゃ


わたくしはアラバスタ様を陰からずっと見守っておりました…
わたくしに会うまいとするアラバスタ様のご意志を守るため
陰からずっと
しかしその身に危機が迫る中…
いてもたってもいられず……
えっと…ずっと見守ってたって…いつから？
ずっとでございます
ですがその甲斐あってアラバスタ様のお力になることが出来ました…
わたくしの生にこんなにも素晴らしい意味をお与えくださるアラバスタ様はやはりわたくしにとっての――
ともかく…


よく帰ってきたの
ポロっ
…これで指輪は揃ったわけじゃな
まさか向こうの世界…それもわしらのすぐそばに土の指輪があったとは
まじ
まじ
面白いのう……
あまり見ないでほしい
気持ち悪い
おっと！これはすまなんだ…
ひっ!?



ふむ…
魔物どもが引き返していきおる
深淵王もそうとうな深手を負ったと見える
一応…
効果あったんだな
何を言う 素晴らしい結果じゃぞ？
わしらではあやつに弓矢一本突き刺すことが出来なんだ


上出来じゃ
よくやった…！サトウくん
大賢者殿
一体全体どのような状況なのだ？
あれからほどなく…深淵王の軍勢が侵攻を開始しての
帝国軍が大山壁でなんとか食い止めておったのじゃ
わしも手伝ったが…どうにもならず逃げるばかりじゃった
マーサは!?
マーサはどうなったのじゃ!?


あの日から魔物はここだけでは無く世界のあちこちに湧き出しておる
それぞれの国はそれぞれの場所で戦っておるよ
マーサも大丈夫
マルス王子もそこにおるしな
しかし帝国も諸国もバラバラじゃ
魔物の数は一向に減らんどころか増えるばかり
まさにジリ貧じゃった
…望みを捨てずにいて本当によかった
ありがとう


さて
一度ノカナティカへ戻るぞ
いくらか面白いこともわかったしのう
アラバスタ様
夜が明けます
指輪王も戻った
姫君たちも揃った
朝日も希望に満ちておるのう
昨日までの地獄が嘘のようじゃ




ずっと見守っていたスマラグディ
ステキ…
ジジィのアラバスタ様もステキ……♡

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


光よ!!
第31話


バッサァ…
皆の者……！
今のうちじゃ!!


指輪の力……
懐かしきもの…


見えてまいりました
……？


これが光の国ノカナティカ…
ふむ…なかなかのもんじゃの
マーサにはとても敵わんが
あの時は色々あってすぐ追い出されたけど……
また帰ってこれてよかったな
うん……


ではわたくしは この子を ロムカまで帰して まいります
急ぎの旅路で 疲れている ことでしょうし
アラバスタ様 ……すぐに
すぐに 戻って参り ますから
う……
うむ…




指輪王様!?
指輪王様だ!!
指輪王様が戻られた!
見ろ!5人の姫をつれていらっしゃるぞ!
おぉおお!!
これこれ皆の者控えられよ
この世の平和を担う王とその姫君たちであられるぞ
ざわ…
ざわ…
おお…
これは失礼した……
は〜〜
ありがたやありがたや…
…!!
こら!
行っちゃダメ!!


魔物がいっぱいきて…お外にでちゃだめだったの
でも指輪王様が帰ってきてくれたんだから大丈夫だよね！
ね？
スッ
ああ…任せろ
この世界は
俺が救う！
ぱぁぁ


わーーっ
フラッ!!
サトウっ!!
まだ体力が…
ははっ…ちょっと
調子よすぎたかな……
そんなことは無い
人々の希望となるのも指輪王の使命


プレッシャーも
あるけど…
俺
こういうので
やる気出るんだな
自分で
驚いてる
結構な
ことだ！
打ちのめされ
立ち上がれなく
なる戦士を
何度も見てきた
ばしっ
サトウ
お前は強いな！
…さて
これからについての
話なんじゃが――


まずはゆっくり休むと良い
今後のことは十分に英気を養ってからじゃ
ささ指輪王様と姫様方まずはお風呂でお体をお清めになってください！
え〜っと……
やっぱり……
一緒に入る流れ？
やだー指輪王様ったらわたしたちも一緒にだなんて
さすがにそれはいけませんよ〜
違う そうじゃなくって…
ちょっとだけ……
ひとりになりたいんだ


ザっぱーん…
はぁ〜……
久々だな〜
この無駄に
でかい風呂！
正直……
危なかったな


何を思い上がっていたんだ
……俺は
そりゃあの時はいけるかもしれないって…
思ったけど……
かもしれないじゃダメだ
やるって決めた以上絶対勝たなきゃ意味が無い
あんな無謀は　もう無しだ


なんとも…
無いよな？
サトウ…？
!?
ば
しゃっ


ヒメ…!?
来ちゃった…♡
ごめん…ひとりになりたいって言ってたのに
いやもう…それは良いんだけど
みんなは…?
みんなには内緒!
ちゃんとふたりきりになれる機会ってあんまり無いから
今のうちに言っとこうと思って……



漫画村
ねぇ サトウ わたしたちって もう…その…
そういう関係な わけじゃない？
…？
ほら こっちに戻って 来る前にさ……
!
あの時は… アンバルが 来ちゃったから やめちゃったけど
わたしたちって ………もう
そういうことする 前提の関係で 良いんだよね……って
だからね…


あの時の
つづき
いつでも
待ってるから
ぱしゃっ
また
後でねっ


………
『また後で』…か……
ヒメ……
なんか凄く大胆になってきたな…
指輪王様の寝室はこちらです
姫様はもう先にお待ちですよ
ではごゆるりと…
ドキドキ
ガチャ…
…






ふふ…
サトウは我々のために再びこの世界で戦う覚悟を決めてくれたのだ
だから我々としてもより積極的になるべきだと思ってな…
さぁ 好きな女から選べ！
もちろんみんな一度にでも構わんぞ!!
えー…
どうした!? ハーレムは男の夢では無いのか!?
それみろ指輪王は困惑しとるではないか
男の子というのは案外繊細なものなのじゃ


はぁ〜……情緒の理解出来ぬ獣人はこれだから……
なんだと!? 妹に先を越されたちんちくりんが偉そうに!!
はぁあ!? サフィラは関係無いじゃろ!?
……
なんだお前ら視線で通じ合って! 何か企んでるのか!? 卑しいヤツめ!!
なっ…!? 卑しいっ…!?
…やっぱ俺今日はひとりで寝るわ……
翌日
…さて皆揃ったかの——


昨日言うとった
これからについての話じゃが……
その前にまずは言い訳を聞かせてもらうのじゃ
指輪が揃えば深淵王を倒せるのではなかったのか？
じとっ…
むウ…
俺は…全部の力を出したつもりだ
だけど傷を負わせただけだった
じいさん率直に言ってくれ
俺の力が足りなかったのか？
それとも指輪の力がおおげさに伝わってたとか？
英雄譚などというものは多かれ少なかれそういうものだろう
英雄の苦労話や醜聞など誰も聞きたくないだろうしな


指輪王様の伝説を信じていたのはわたしたちも同じです
だからこうしているわけですし…
じゃがの
大賢者もそれを真に受け信じ切っていたなどとお笑いではすまんぞ？
ううむ…
手厳しいのう
確かに指輪王と深淵王の戦いについて細かくは伝わっておらん
しかし多くの知見を持ってみれば指輪王が深淵王を封じたことは間違いない
これだけは確かじゃ
…じゃが
サトウくんが深淵王を倒せなかったのには一つ…心当たりがある
あの黒い指輪
深淵王の騎士についての伝承はある
じゃがその身につけていた黒い指輪については…何一つ伝わっておらん



黒い指輪
本当にそんなものがあった?
ああ
ちょうどコレを黒くしたみたいなのがあってさ
アンバルの記録には無い
ドワーフはそれを知らなかった
つまり指輪王がサトウくんに代替わりしたように
深淵王もまた長い封印の間に力を変化させたのかもしれん
確実なことはただ一つ
サトウくんの一撃は深淵王に傷を負わせたという事実じゃ
…


深淵王を封ずるのに どれほどの力が 必要なのかはわからん
次の戦いでは 深淵王も不意を 突かれることは あるまい
失敗は 許されんじゃろう
こちらが取る 手段は一つ
指輪の力を 引き出す
つまりサトウくんと 指輪の姫君の絆を 強めるのじゃ
今より もっと…… ってこと？
もっと強い 絆…関係……
それって もう……
…まぁ それも アリじゃが
うむ
つまり 子作りだな
!!
アリ なの!?
それだけでは ない——


…かつて指輪王と指輪の姫君たちは
同じ戦場に立ったという
指輪の力を引き出すためには
〝共に戦う意思〟〝意思を支える実力〟
それが必要なのかもしれん
実力か…
わたしやサフィールはともかく…
わたしたちにはとても……
実力不明
…そこでじゃ



皆には指輪王の妻として相応しい力を身につけてもらう！
!!!
『エルフの大書庫』
『魔導の尖塔』
『帝国の神話遺物庫』
聞いたことはあるじゃろう
???


ロムカには エルフの知識を 保管している 大きな書庫が あるのです
書庫…といっても こちらのものとは 少し違うのですが
帝国は 神話の秘宝を収集 していると聞く
なるほどそこから 使えそうな物を 頂戴するのだな！
…まぁ そんな 物騒なことは せんがの
知識
武器
そして魔法
手に入り得る力は 全て試してみようと いうわけじゃ
指輪の魔力を 引き出す ために
魔法の鍛錬も してもらうぞ
そう
これは修業…


いわば
花嫁修業じゃな!!!
花嫁…
花嫁…!
ズキュ――ン…♥
花嫁…!!!


花嫁修業かぁ…
はなよめ…
なんか嬉しそうだな
えっ？別に？
ずっとサトウに頑張ってもらってばっかりだったから…
わたしも頑張らないとね
…そういえばさ！
サトウのおじさんは元気？
…ん？ああ……


あの人は相変わらずだよ
どうも夏休みの間も家に帰ってなかったみたいでさ
ありゃ放任主義なんてもんじゃないな
ま 書き置きはしてきたけどさ
そうなんだ…
…そんなに心配はされないよ
家族っていっても年に何度か会うだけだしさ


わたしの家族は…
お父さんとお母さん
それに……妹がひとり
わたしと違ってこの世界に残されたから…
もう10年会ってない
今何してるんだろうね
わたしの両親はここ
小さかったから…
もう顔もなんとなくしか覚えてないけど
わたしを守るために命を賭けてくれたことは覚えてる


お父さん
お母さん
帰ってきたよ…
このひとがね…
わたしの旦那さま
ぎゅっ


ビクッ
おお！ここにおったか
魔法の修業のことなんじゃがな…
うん がんばる！ よろしくね おじいちゃん！
…いや わしじゃなくてな クリストルには相応しい先生を呼んでおる
もうじき来るんで知らせておこうと――
ブワッ…


…ふぅん
あなたが……
けっこう
悪くない
じゃん


あたしは
モーリオン・ラヴリ・ノカナティカ
よろしくね
お姉ちゃん
それと…
お兄さん♡


さぁ好きな女から選べ!
グ
もちろんみんな一度にでも構わんぞ!!
え~…………
嬉しくはあるけど…
やっぱなんか違うんだよな……

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS

第32話




モーリオン・ラブリ・
ノカナティカ……


…ヒメの
妹!?
う〜〜ん……正直ちょっと拍子抜けだな〜


指輪の使命のために異世界に逃がされて
どんな辛い思いをしてきたんだろう………って
ちょっとは気の毒に思ってたのに…
彼氏付きで帰ってきちゃうんだもん
!!
クリストルがこの世界を離れた後
モーリオンはノカナティカを離れ
賢者見習いとして魔法を学んでおった…
にんまり
…?


ワシも色々やらねばならんことがあるしの
クリストルの魔法の修業は妹であるモーリオンに頼むことにしたのじゃ
そーゆうこと！
師匠がどーしてもっ……っていうからね！
〝師匠〟…？じいさんが!?
ヒメと一緒でこの世界にはずっといなかったはずなのに
どうして…
数年に一度は状況を見るために帰っておったんじゃ
モーリオンを見てやれたのはその時くらいじゃがの
それでも
あたしの師匠はおじいちゃんだけって決めてるから！
…コホン
ところでモーリオン…


そのさっきから座ってる場所なんじゃが……
両親のお墓…
えっ？
うそっ!?気づかなかっ…
きゃっ!?
ごめんね！お父さんお母さん…
おいたた…
モーリオン…


ど……どうした…？
生き別れの姉妹の感動の再会じゃないのか？


10年前あたしいくつだったと思う？
顔もちゃんと覚えてないくらいだし
そんなに感動も無いんだけど？
そっか……
そうだよね…
まちゃんと先生ならしてあげるから
そこんとこ安心しといていいよ
…で
いつから教えれば良いの？



時間が惜しいからの
今すぐにでもと言いたいところじゃが…
その前に
クリストルには手に入れてもらわねばならん物がある


ノカナティカの
〝光の杖〟
コレさえあれば
魔法の習得も
早まること
うけあいじゃ


…これ
お母さんが持ってた……！
そう
あの日から相応しい時が来るまで
ここで封印されておったのじゃ
本来はもっと早くに渡してやりたかったが…
ドタバタだったもんな
魔法で封印されておるが
王家の魔力に反応して簡単に解けるはずじゃ
うん…


ごくり…


抜けないんだけど…
…あれ？
グイッ
あれっ!?
グイッ
ふ〜ん……
こりゃ教えがいありそ♡



の〜〜〜う？
お捜しですか？
暇じゃからのう
からかってやろうと思って
指輪王は妾たちをほったらかしてどこ行ったんじゃ？
サフィール様！
お暇でしたらわたしと一緒にお菓子作りをしましょう！
イヤじゃ
!!
ガーン
……
アンバル スリープモード中
漫画村


なんでも
クリストルが
魔法の
特訓を
始めるそうだ
特訓…
それに
付き合って
いるのだろう
魔法が
一朝一夕で
身につくとは
思えんのじゃ
いや
ノカナティカ王家は
代々高い魔法の素養を
持つと聞く
高名な賢者の多くは
王家の傍流だそうだ
案外クリストル姫も
隠れた力を
持っているやもしれん
むしろ
特訓せねばならんのは
サフィールのほうかも
しれんぞ？
ふん
特訓など
要らん
せめて
妾レベルに
なってから
言うがよいのじゃ
そうだな……
パタン
特訓と
いえば…


アンバル
なに？
ドワーフが作り上げたその力
気になっていてな
わたしもこのままでは体がなまってしまう
どうだひとつ手合わせ願えないか？


ふんぐぐぐぐ
ぐぬぬぬぬ…
はー
ほんっとになんの魔力も無いんだ
ぜんぜん複雑な封印じゃないのに
ううむ…
向こうの世界で目立たぬようにと魔法から遠ざけすぎたか
素養はあるはずなんじゃが…
あーあ あたしじゃ抜けないしなく〜〜〜〜
光の指輪が無いとなー
ぐんぬぬぬぬぬ!!


ポンッ
きゃっ!?
ポン…
焦らなくていい
ヒメならきっと出来る


…うん
ありがと
あ〜あ
ふたりして見せつけちゃってさ〜
なに コツを掴めば簡単じゃ
ヒメは賢いからの すぐ出来るようになるじゃろ
ヒメは学校の勉強は得意だったからな！
ま…まぁサトウよりは……
まずは何事も頭で理解するところからじゃ
ふ〜ん お姉ちゃんって そんなに賢かったんだ〜〜〜
へぇえ〜〜〜〜
――と いうわけで


漫画村
魔法とは……
世の理に従い意思の力を以て…
万物の魔素を操るものである!!
ドーン
アラベスタ大賢者様による おりがせい 魔法基礎講座
ずいっ
…って言ってもわかんないよねー
ニコ
あたしが教えてあげる!


簡単に言うと
思い通りにモノを
動かす力
それが
魔法
ただ
普通と
違うのは…
にょろろ～～っ
ちょっと
離れたモノも
動かせるし
形だって
変えられる
おぉ～…
あらゆるモノは
四つの魔素の
組み合わせで
出来てて…
水なら
水の魔素が
多いし
地面は
土の魔素
ああいうのは
見たまんま
火の魔素ってことか
木とか紙とかも
火の魔素が多いよ
風の魔素は
ちょっとイメージ
しにくいけどね


それで
その魔素を思い通りに
動かすための力が魔力
魔力の流れで
ぐいっと
魔素を押せば
そっちにモノが
動いて……
ぐいっ
……？
あー
なるほどね
それで師匠は
あたしを
呼んだんだ
うむ
そういう
ことじゃ
魔力は
目に見えないし
ひょいっ
言葉で言っても
わかりにくいよね
だから
感覚で覚えてね


!!?
ビくっ
へたぁ
なっ…
ヒメ大丈夫か!?
なに……
いまの…



あたしとお姉ちゃんの魔力は質が近いから
ちょーっと中から触ってみたの
魔力は魔法使いのもう一つの腕
〝どこか〟が〝何か〟に触られた感覚はあったでしょ？
うん…
〝どこ〟を触られたんだ!?
わかんないよ!!
〝そこ〟を伸ばして
杖を掴んで
引っこ抜く！
ま簡単には出来ないだろうけどね
頑張れば空も飛べるよ！
凄いな妹…
お兄さんがそれ言っちゃうんだ？


あたしたちに出来るのは今ある魔素を操るコトだけ
何も無い所から魔素を生み出すことは出来ない
ソレが出来るたった一つの方法が指輪の魔法
!!
そんなに凄い物だったのか……
ほんとずっこいよね～
軽いな…
さ お姉ちゃんはイメージ！イメージ！
さっきの感覚を思い出して～


ボゴ
ニャアアアアー!!
あはは!
あのグラナートが手も足も出んとはの!
強い…!
これほどとは
ちゃんと手加減はしてる
ただの猫人がアンバルに敵うわけが無い
!!


アンバル……
まだ実力を
隠して
いるのか？
本気で来い！
本気で!!
おい
これ以上は
やめておいた
ほうが……
フッ…
なっ…!?


ドォオオオォォーン…


手加減無し
…なんてね
ちゃんと当たらないように撃った
ニコッ
…!!
グラナートは自分の身体能力を過信してる
今のが魔物だったら死んでた


魔物の炎など…
どこを狙っているのか わかっていれば たやすく避けられる！
それが何十 何百となっても？
アンバルは魔力で身を守ることが出来る
それならば撃たれる前に切り捨てる！
魔法など使えずとも…
アンバルは指輪王を守り戦うために造られた
猫人は生きるために生きている 戦うためじゃない
生きる者にはそれぞれ適性がある
魔法が使えなくても問題無い
アンバルが守る
…頼もしいことじゃないか


あのっ…お菓子作ったのであちらでお茶にしませんか？
魔法…
か……


フン
フーン♪
フーン♪


君は今日から ここで魔法を学ぶ
生まれ持った 素質を 余すことなく 力に変えてもらう
それ以外の ものは…
一切必要無い
…はい


…ホント
つまんなかったな……
でもこれからは…
面白くなりそ♡


このサイズ感……
ヒメの2年前くらいと同じ!!

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


第33話


とりあえず
昨日の話を
ふまえて
もう一回
やってみてよ
見えない腕を
伸ばして
杖を掴む
…だっけ
ガシッ
しぃーーーん…
………………



やっぱダメだぁ…
ぜんぜんっわかんない!!
昨日はちゃんと感じ取れてたのに？
あれは…っ
なんか変な感じがしただけだし…
『魔力に対する感覚は誰もが生まれつき持っている』
『たとえば肌で風の流れを感じることが出来るように』
普通ちょっとはわかるもんなんだけどな〜？
ぐっ…
そもそも魔力の流れを感じたことは何度もあるはずなんだけど…
…？
戦いを始める前に決まってやることあるでしょ？
!!


指輪の力は
絆の力…
愛の絆で
魔力を高める…
なんていうと
ロマンチックだけど
やってることは
ただの魔力の
受け渡し
お姉ちゃんの身体に
溜め込んだ魔力を
指輪を介して
お兄さんに
渡してるの
まぁ
意思と感情は
裏表だから
感情が高ぶれば
意思の力も
一緒に強まる
わけで
絆の力というのも
あながち
間違っては
いないんだけど…
――と
いうわけで
あたしの目の前で
いっちょ
やって見せてくれる？
ええっ!?


慣れ親しんだ方法でも意識してやるとぜんぜん違うからね
これで感覚を掴んじゃえばいいんじゃない？
あの…でも……
そんな見られながらするのは…ちょっと……
ねね
今まで何回くらいしたの？
12回だ
なんでそんなの覚えてるの⁉ おかしくない⁉
そうか…？
そうだよ‼
それにたぶん間違ってるし……
サトウが寝てる間に何回かしてるから……
いつもやってることなのに出来ないんだ？
お姉ちゃんかっこわるーい
うぅ……


…ヒメ！


漫画村
へぇ… けっこう 男らしいんだ
そうそう…
唇に意識を 集中して
指輪の魔力が 今……
移って いってる…
から……
ポ…


…から⁉
はっ
…ん？
あぁ…
えっと！
なんであたしが
照れてんだろ……
ドキドキ
ザッ
魔法の訓練だと
言うから
見に来て
みれば…
普通にいちゃついとる
だけじゃないか‼
グラナート⁉
…みんな‼



お兄さん
？
顔に似合わずやるじゃ〜ん
指輪のお姫様たちだよね？
みんなカワイイ〜☆
あ
話ならもう聞いてると思うけどあたしはモーリオンクリストル姫の妹です！
みんなよろしくね☆
なんかわたしの時とずいぶん態度が違うんだけど……
そうだ指輪のお姫様たち…ってことはさみんな魔法は使えるのかな？
もちろんなのじゃ
アンバルの力は厳密には魔法では無い
えっとわたしは…
わたしには…剣があるからな！


えっと…意外とダメな人も居る感じ？
そっか…まぁ今はお姉ちゃん優先だけど……
ところで…さっきのいちゃついてたのはなんなんだ？
魔法の訓練をしているはずでは……
あぁあれは…
指輪による力の受け渡しから魔力の流れを感じてもらおうと
うんぬんかんぬん……
なるほど…
それならわたしには関係の無いことだ魔法など……
あの……
わたしにも試させてもらって構いませんか？
!!
ネフリティス!?
ちらっ


べ…べべべべ別に
良いんじゃないの!?
そのくらいの
こと……
覚悟は
出来てるし…!?
ふ〜ん…
そうだよね〜
指輪の姫様たちの愛を
一身に受け止めるのも
指輪王の務め
なんだから!
お姉ちゃんだけ
良い思い
しようなんて
ありえない!
では……


唇に意識を集中して…
…わかる？
今 指輪を介して
魔力が流れているから…
その流れを……自分の手で掴み取るの！



エルフは生まれつき風の魔法に通じてるっていうけど…
まさかこんな簡単に出来ちゃうなんて……
わたしもっ…わたしももう少しで出来るようになるから！
ちょっと待て！次はわたしが試す番だ！
グラナートは魔法とかいらないでしょ!?
ククク…無能ども精々頑張るといいのじゃ
無意味


はー
ボスッ!!
なんか めっちゃ 疲れた…
魔法… 見えないモノって 大変だな
俺は…剣だって 意外と扱えたし…
……いや 今の程度で 扱えるなんて 言っちゃいけないな
強くなる……か
コンコン
サトウ 良いかな?
ヒメ…?


…難しいもんだな
俺なんか感覚だけで使っちゃってるからさ…
なんか普通の魔法とぜんぜん違うみたいだし
わたしも感覚はあるんだよ
…なんかピリピリするようなぞわぞわするような感じ…
ちょっと…ううんけっこう悔しいんだ
出来ることがあるのに出来ないのって


なんか
らしいな
ヒメらしい
ねえ…
じっくり…
やってみても
いいかな…
何を？
その…
練習
！


ふたりきりだと
集中出来ると思うから…
いいよね
……サトウ
お……
おぅ……


…なに？
練習だもんな
真面目にやらなきゃと思って
ふふっ
サトウはいつも通りだね




ギュ…
もっと
いっぱい
して……♡


ハァ…
ハァ……
わかっちゃった……
かも……
……え？


サトウに触れてるとこ全部で感じた…
これが……魔力の流れなんだ…


わたしの…魔力！
いけるかも!!
タタ
サトウ…一緒に！
手を握ってて！
ええっ!?
せーの…
タタタ




なんと…
杖が
抜けたか!!
じゃあ〜〜ん!!
やはり
クリストルは
出来る子じゃのう
第34話
…あれ？
ほんとに
抜けちゃった
んだ
昨日の夜の
うちに何が…
何って…
別に何も…
うむ
うむ
違う
からね!!



――しかし
これで
母上も
一安心じゃろう
おかあさん…
十年前――
この国に魔物の大群が
襲来したことが
あってのう…
おそらく
復活が近づいた深淵王が
限られた力の全てで
仕掛けたのじゃろう
光の指輪がなければ
指輪王も
選べんからのう
光の国の王と
王妃は必死に戦った
しかし魔物の数は多く
クリストルに指輪を託し
逃がすだけで
精一杯じゃった
そしてその戦いが元で
クリストルの両親は
命を落としたのじゃ


彼らも
わしにとって
かわいい
子供のような
存在じゃった
優しく
正しい…
まさに
光のような…
わたしも…
頑張って
近づきたい……
ギュ…
漫画村


やっぱり幸せ者だね
……お姉ちゃんは
……よし
光の杖も無事手に入ったことだし…


こっから
どうすんだっけ？
指輪王は勢いだけじゃのう…
大賢者様がおっしゃられていた目的地で
ここから一番近いのは…
わたしの国風のロムカです
〝エルフの大書庫〟
これまでこの世界に生まれた全てのエルフたちの知識が眠る
開かれぬ書庫
ロムカとの国交が回復した今
大書庫の知識はサトウくんたちの力となるじゃろう
まぁわしも中を見たことは無いが…
はるか昔…深淵王と指輪王の戦いの時代
その記録が唯一残されておる書庫じゃ


もちろん並行して
魔法の修業は
続けてもらうぞ
出発は…
今日の
午後には
出るかの
そんなに
すぐ!?
早すぎじゃろ
慌ただしい…
……深淵王は
撤退しただけ
いつ戻ってくるか
わからない
………
漫画村


ガタ
ガタ
ケツが痛い
なんで馬車なんだ!?
あのでっかい鳥は!?
ガタ
ガタ
ガタ
ガタ
ぴょこっ
ロムカの神鳥はずっと風の障壁の中にいましたから
持久力が無くなってるそうですよ
ずいぶん無理をさせたからのう…
ガタンガタ
力は使うべき時まで取っておくべし
安全な街道があるならそれを使えばいいことじゃ


街道ももう安全とは言えないけどね
深淵王が復活してからこの世界に安全な場所なんてないよ
森とか沼地洞窟…
いろんな所から深淵の魔物が生まれてきてる
闇の領域ヴァーンナーからずっと離れたここでもね
!
噂をすれば……
うわぁーっ


あたしたちには気づいてないね…
街道の安全も確保出来る一石二鳥じゃ
よし…
やるか!
なっ…
どうしたんじゃ!?


サトウ!!
ぐ…ああああっ…


なんなのじゃ……
これは…⁉
これは……
深淵
!!


しまった…
気づかれたぞ!!
任せて
アンバルが守る
うぉおおおおっ!!
なっ…!?


やったか!?


待て！
今
援護を…




ハァ…
ハァ…
ほら
強く押さえて
強く


スゥゥゥゥ…


なんじゃ これは…
このような呪い 見たことも 無いのじゃ…
アンバルは 記録している
刻まれた深淵は 身を蝕み
いつかは深淵に 取り込まれる
先の 深淵王との戦いで やられたのか…
むくり
これは… とりあえず
治ったのか？
今は 押さえてるだけ
…放っておくと どうなるかは わからない
消える
魔物になる
死ぬ
色々
そんな…
大丈夫
消せずとも 深淵は 光の力で 押さえられる


フラ…
…あれ？
なんだか…
急に……
魔力切れだね
これも初めて？
サトウくんはいつも経験しておることじゃ
いつも……
サトウが…



それにしても…
パシャ
パシャ
らしからぬ無茶をしおって
指輪王があのザマでは致し方ないのもわかるが…
グラナート焦ることは無い
お主は十分に強いのじゃ
…いいや



結婚指輪物語⑥　おわり


……
ほとんど反応しないから好き。

あとがきページ

カニ

6巻の表紙は指輪の姫ではなく、
ヒメ（クリストル）の妹 モーリオン でした！

ヒメに妹が居るという設定は最初からあったんですが、
メインヒロインである指輪の姫たちが揃うまえに
あまりキャラ増やしてもな…と思い、ここまで引っぱることになりました。

前巻までで今までのメインストーリーである指輪集めが終わり、
この巻で敵を倒して終わり！ということにも出来たわけですが、
それではせっかくのヒロインたちが顔出ししただけで終わるようなものなので、
これからは『花嫁修業編』と銘打ってヒロインたちの掘り下げをしていこうと思います。
ヒメの唯一の家族であるモーリオンの登場もその一環です。

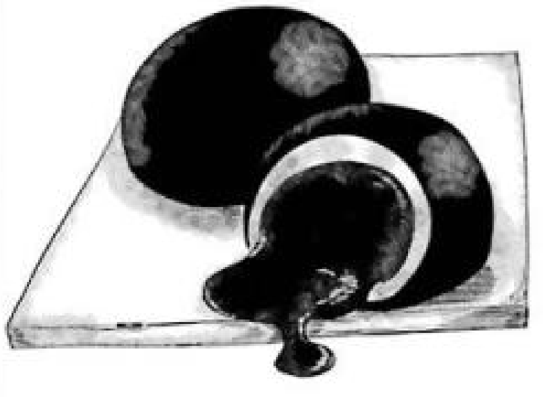
ここまで続けられたのも読者の皆様のおかげですね。ありがとうございます。
それでは、次の7巻もお楽しみに！！



一方で近年うわさに上るのが深淵王を信仰する過激な一派の存在である．世の終わりを予感させる出来事が続けば必ずといって良いほど現れる破滅思考の信奉者たちであり，深淵王の軍勢に入ろうと旅団を組みヴァーンナーを目指す巡礼の旅をしているという．先ほどの集落に暮らす人々とは違い，彼らは死と滅びを求める破滅の徒であり，生きる事を望んではいない．その容姿は，見える目を眼帯で塞ぎ，傷も無い腕に包帯を巻き，闇を想起させる黒いローブに身を包んでいる．無論，深淵王やその配下の魔物たちがそのようなものを配下にくわえるわけもなく，彼らの多くは挫折し引き返すか，魔物の手にかかるか，集落の人々に暖かく迎えられ新たな村民となるかのいずれかである．

どのような理由を持って訪れる者にとってもヴァーンナーは進入を拒む禁断の地であり，深淵王あるかぎりそれが変わることは無いのである．

▼まずすぎると名高い深淵まんじゅう
深淵王の脅威を舌で感じることが出来る
黒い餡は秘密のレシピで門外不出



人類，ヒト，人間．様々な呼び名を持つこの種族は，アーヌルスにおいて最も繁栄している種族である．光の国ノカナティカや帝国を構成する主要な種族であり，その近隣諸国から果てはマーサ近くの辺境にまでどこにでも存在する．まさにありふれた種族といえよう．

その最たる特徴は，特徴たり得る物が無いという点に尽きる．エルフのような長い耳を持たず，猫人のような尻尾は無く，竜人のような角も無く，ドワーフほど小さくも無い（ドワーフについては推測である）． まるで他種族に共通する部分だけを組み合わせてつくられたような人種である（ドワーフと竜神と人間の耳はよく似ていたと伝えられている）． 人類とよく似た特徴を持つ種族がいないわけでは無いのだが，その種族はアーヌルスのどこを探してもまず見つかることは無いだろう．

外見以外の特徴もとにかく普通を体現したような種族である，暑さ寒さにほどほど強く，寿命もほどほどに長く，武術も魔術もほどほどに上達する．ただし種族内での個人差は大きく，魔力をほとんど持たない者も多く存在する一方で特に魔力に秀でたものはエルフや竜人の魔法使いを凌ぐことさえあるという．ある学者の説では人間の祖先は様々な種族の血が混ざっており，それらの特徴が打ち消し合って今の姿になったとされている．

なお，指輪王の種族は人間であったと伝えられている．

アーヌルス博物誌

闇の領域ヴァーンナーは深淵が支配する暗黒の世界である．大山壁カオガミカの北，かつて猫人たちが暮らしたニーダキッタ平地のさらに北方に位置するヴァーンナー．その大地はひび割れ火を噴き，熱風が巻き起こり，ときおり滝のような豪雨が襲う，人も獣も住むことかなわぬ灼熱の不毛の地であったとされている．「深淵」はヴァーンナーの大地より突如現れたと伝えられているが，指輪王より前には誰一人ヴァーンナーの地を踏んで帰った者はいないため，その真偽は定かでは無い．深淵王が封印された後の時代も闇の呪いは爪痕深く，禁足地として今なお人のよりつかぬ場所となっている．

非常に厳しい自然環境の土地であり，深淵の魔物が徘徊するようになってからはさらに危険を増したものの，その周辺に住む者が皆無かといえばそうではない．ヴァーンナーの辺縁，かつてのニーダキッタの地にはごくわずかながら人が暮らしているのだ．彼らは小さな集落を作り，厳しい気候の中わずかな作物を糧に外界との関わりをほとんど持たずに暮らしている．構成種族はもともとこの地に暮らしていた猫人が比較的多いが，人間や他種族の姿も見ることができる．そのことから彼らの祖先は何らかの事情で国を追われた者たちであることが推測される．実際に大山壁カオガミカの北方は流刑地として使われてきた歴史もあり，生き延びた者たちが住み着いているのだろう．

興味深いのは，そうした集落の多くに深淵信仰のようなものが見られることである．人と世界を滅ぼさんとする深淵を信仰するのは一見すると異常なことのように思える．しかし古くより人は恐ろしい天災や害なす獣を崇め，なだめ，すこしでも災いを減らそうと勉めてきた．心を持たないとされる深淵王とその魔物たちを信仰したところでおそらくは何の利益も無いことなのだが，そうして心の不安を減らさねば生きていけぬのが人の心の悲しいところといえよう．

闇祭りと称される行事はその深淵信仰の最も代表的なものである．年に一度，深淵王が封印されたとされる日に村を挙げて行われるその祭りは，見物客も無く，華々しい飾りも無いが，凄まじい熱気につつまれる．三日三晩にわたり住民総出で踊り狂うのだが，思い思いの振り付けで無言のまま踊り続ける様は異様な高揚感とともに一種のやけっぱちな空気さえ醸し出している．なお，祭りに際して深淵まんじゅうなる菓子が振る舞われるが，木炭を練り込んだ皮は黒光りし，非常に苦く，土のような味のする餡とあいまってこの世の苦しみを閉じ込めたようだと評されている．

法を行使するのは非常に高等な方法である．ただ，格好良いからといって複雑で長大な呪文や，見栄えに凝るばかりの動作に注力することは，かえって魔力の流れを鈍らせるので，特に若い魔法使いは注意が必要である．

▼四大元素相関図の最古の物
文字らしきものの意味はわかっていない



作図者の字があまりに汚かったためである

風と同じく最も普遍的に存在する土の魔素ではあるが，その扱いは非常に難しい．土の魔素で構成されたものは魔力の通りが悪く，魔素の繋がりも強固だからである．高度な土の魔法を用いることは熟達した魔法使いの指標といえよう．

杖は魔法使いにとって必要不可欠なものではないが，多くの魔法使いが利用するものでもある．魔法の杖の多くは木材を用いて作られており，含まれる魔素を火の魔法に用いるためである．その際，杖は芯から炭となっていく．上等なものになると，火の魔素を凝集した特殊な木材を用いているものもあり，家が買えるほどの値がすることも珍しくは無い．特別な杖の中には金属を素材に用いたものがあるが，火の魔素を多く含む希少な魔法水晶を芯に組み込んである．通常の金属の杖は魔素を取り出しにくく，これは魔法使いが杖の代わりに剣を持とうとしない理由でもある．

光の魔法は四大魔素の魔法とはその根本を異にする．光の指輪を持つ者のみが操れるとされているが，光の魔法を使いこなした者は歴史に記されていない．神話において，深淵の闇を消し去る破邪の魔法と伝えられているものであり，明るさをもたらす太陽や蝋燭の光などとは全く異なるものであるらしい．

なお，光の魔法を操るなどとうそぶくものも居るが，それはすべて火の魔法を用いて目を欺いているにすぎない．

一見して四大魔素を用いた魔法とは異なるように見える魔法もこの世界には存在する．しかし，それらもすべて原理は同じくするものであり，たとえそれが空間を渡る魔法であったとしても同様である．ただし，それが条理を越える結果を導くものであればあるほど，魔法使いに膨大な魔力を要求する．たとえば別世界への穴をあけるようなものであれば，魔力を失い肉体を動かすことさえできなくなってしまうだろう．思い描ける範囲のものを，無理の無い程度で正しく使うことこそが魔術上達の近道である．

アーヌルス博物誌

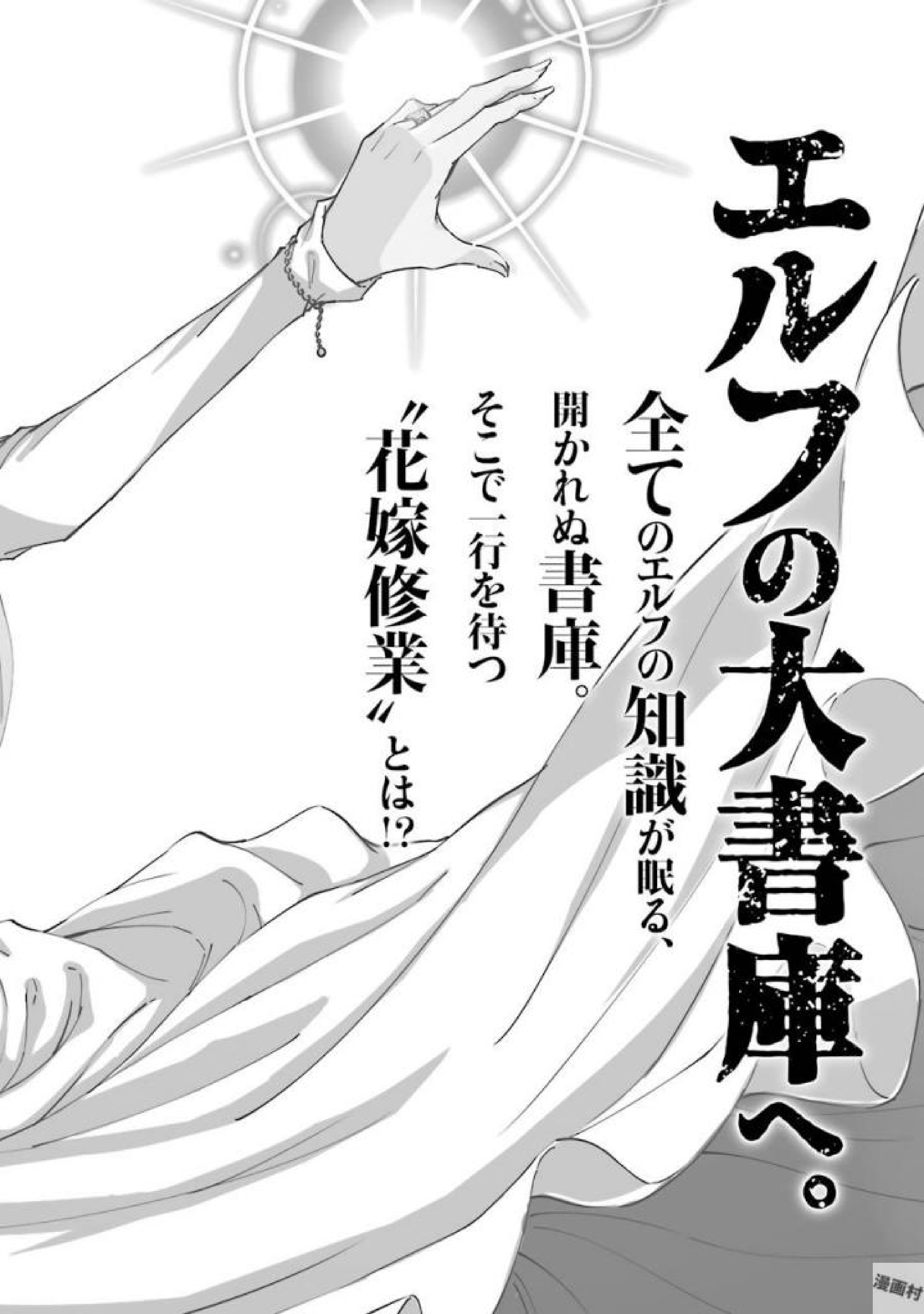
魔法とは意思の力をもって物質を形作る魔素に働きかけ，そのつながりを絶ち動かし，新たな形を与える方法である．アーヌルスの万物は火水風土の４つの魔素の組み合わせでできている．たとえば木は火の魔素と水の魔素を含む大量の土の魔素で構成されており，わずかに風の魔素を含む．その火の魔素に意思の力『魔力』をもって働きかけ，外部に導き出し，火炎を生み出すことができる．魔法を使うには素養と訓練が必要であり，誰でもできると言う物では無い．魔素との相性の良い者が知識と長い修業をつみ，はじめて魔法使いとなれるのである．

世の万物は魔素からできており，人の肉体も魔素で構成されている．人が自らの体を動かす時，そこには意思の力が働いている．つまり，意思をもって肉体を構成する魔素を操り動作を行っている，と考えられている．それでは「肉体」の範囲を自分以外の物にまで広げることができればどうなるか．同じ魔素で構成されたものならば，意思の力をもって手足のように操れるのではないか．これが魔法の根本とされている．

では，外部から他者の肉体を構成する魔素を操作して思いのままに操ることはできるのか？　有史以来多くの魔法使いがその邪悪な誘惑に取り憑かれたが，誰一人成功することは無かった．それは生きとし生けるあらゆるものが生まれながらに持つ意思の力「自我」によって自身の魔素のつながりを保っているためであり，自我の力は外部からの意思の干渉よりも強いためだと考えられている．

発動する魔法の効力は，魔法使いの秘める魔力と，どれだけ具体的に変化を想像できるかにかかっている．矢のようにまっすぐ飛ぶ水を想像するのはたやすくとも，人の形をした水が踊る様を詳細に思い浮かべるのは難しい．広範囲に及ぶ，複雑な魔法ほど行使が難しくなるのはこのような理由がある．剣に風をまとわせることや，蝋燭に火をともす魔法は比較的簡単な部類である．また，熟練した魔法使いが近くにいるのであれば，その真似をするのが早い．理解できずとも，肌で魔力の流れを感じられるならば模倣も容易である．考え方や習慣，そして何よりも魔力の質が近い者を師とするのが勧められる理由はここにある．

意思を確固たるものにするため，ときとして魔法使いはその補助に声や動きをともなうことがある．呪文を唱えることや肉体の動きに全く意味は無いが，同様に魔法の妨げになるものでもない．火球を飛ばすときなどは投擲する動作を取ることで，魔力の制御を容易にしているのである．むしろ，かけ声や動作無しで魔


エルフの大書庫へ。
全てのエルフの知識が眠る、
開かれぬ書庫。
そこで一行を待つ
〝花嫁修業〟とは!?


NEXT
結婚指輪物語
TALES OF WEDDING RINGS
作：めいびい
第7巻 乞うご期待!!



たくさんの"H"(ハート)がつまった一冊!!
HEROINE(ヒロイン)
HAREM(ハーレム)
ちょっとH(エッチ)
130点以上の
美麗イラストを
一挙収録!!
描き下ろしも多数♡


SQUARE ENIX.
※単行本発売時のまま収録しています。
この2人のヒロインが目印!!
10年目の初画集
めいびいARTWORKS 2008-2018
「結婚指輪物語」
「黄昏乙女×アムネジア」+α
NOW ON SALE!
価格:3,000円(税抜)　仕様:A4判/フルカラー184ページ


結婚指輪物語VR
Tales of Wedding Rings VR
2018年春 配信決定!!
※単行本発売時のまま収録しています。
VR!
「結婚指輪物語」の世界が
「結婚指輪物語」が、なんとVRで登場!! スクウェア・エニックス開発陣による最新技術で、マンガの世界をVRによるかつてない没入感で楽しめる!!
※画面は開発中のものです。
360度のVRで楽しめる!!

☆マンガのテイストを生かしたCG表現





☆原作の世界をバーチャル空間に再現







詳細は公式HPへ!!

http://www.jp.square-enix.com/mangainvr/

イラスト:めいびい

デジタル版　Ver.1.00

BG COMICS

ビッグガンガンコミックス

結婚指輪物語⑥

著者／めいびい

2018年２月24日　Ver.1.00発行

発行所　株式会社スクウェア・エニックス

担当編集　小泉浩志

装幀　阿閉高尚

初出／月刊ビッグガンガン2017 Vol.07、Vol.08、Vol.10～2018 Vol.01

＜ページ抜け・誤植・内容についてのお問い合わせ＞
スクウェア・エニックス　サポートセンター　http://sqex.to/jp_manga_support
＜ビュワーの不具合・再ダウンロードできない等、販売に関するお問い合わせ＞
本作品を購入された電子書籍書店のサポートセンターにお問い合わせください。

カバー折り返し



めいびい

MAYBE

サトウの指輪一本化は
作画の都合8割です。

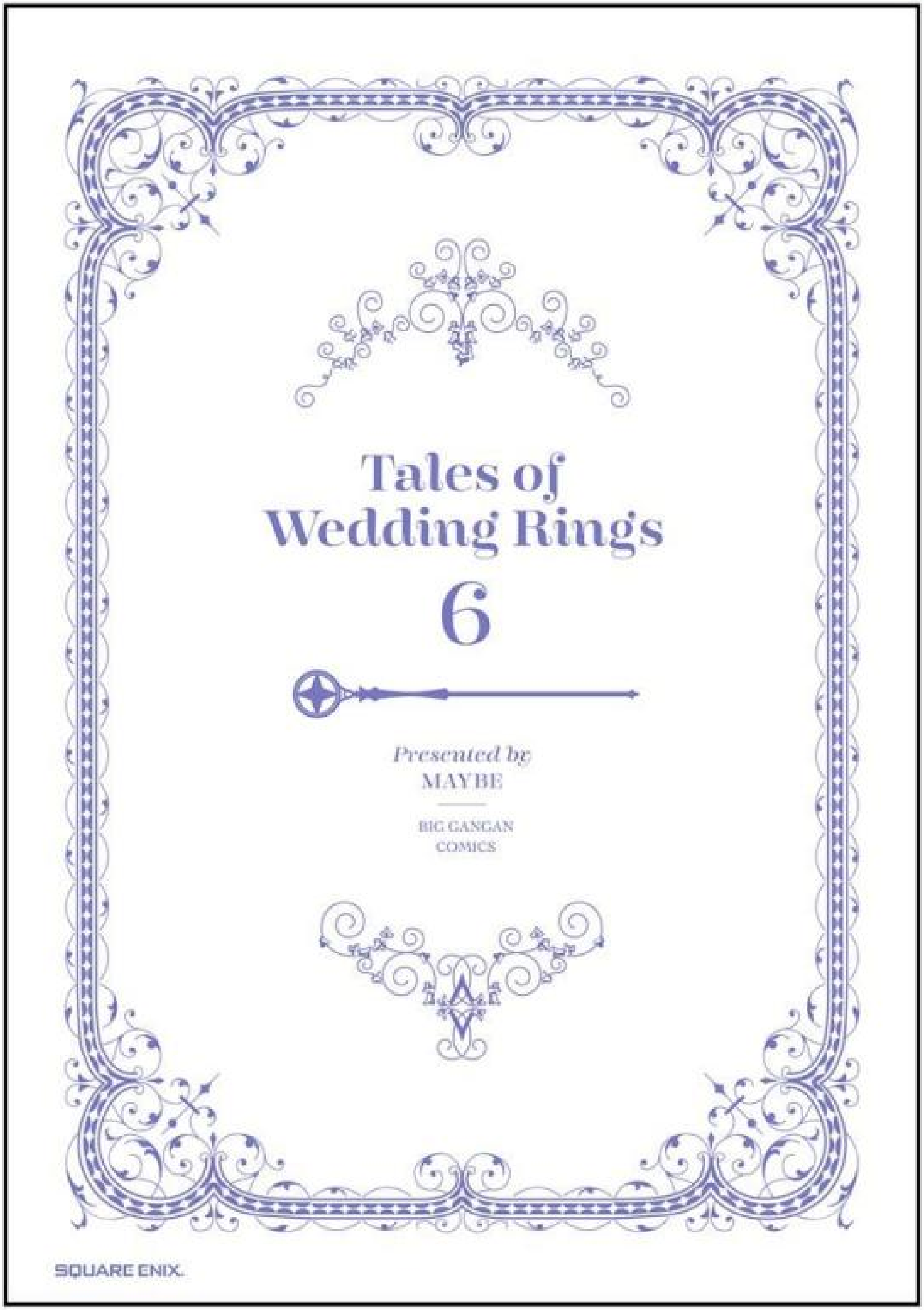
※コミックス発売時のカバー折り返しを収録

表紙 表



※コミックス発売時の表紙 表を収録

表紙 裏



※コミックス発売時の表紙 裏を収録

カバー裏面



「かつて神だった獣たちへ」×「結婚指輪物語」コラボイラスト

講談社コミックス「かつて神だった獣たちへ」([illegible])カバー裏面掲載のイラストとつなげると1枚のイラストになります。※製本の都合上、一部ズレが生じることがございます。



※コミックス発売時のカバー裏面を収録

カバー裏

Tales of
Wedding Rings

結婚指輪物語

異世界に戻ったサトウと5人の姫。しかしまだ深淵王に敵わないことを
知った姫たちは、パワーアップのため"花嫁修業"に挑むことに。
ヒメの修業の先生はなんと生き別れの妹モーリオン!!
この妹、ヒメに思うところがありそうで…？
異世界新婚ファンタジー、新展開の第6巻!!

6

Presented by
MAYBE

※コミックス発売時のカバー 裏を収録